

○栗栖野 <small>くるすの</small>	三三ノ六	○廻忽 <small>(音楽)</small>	四七ノ九	○光孝天皇 <small>(小松の御門)</small>	四〇ノ二
○車	三五ノ六	○廻鶺鴒	四七ノ九	○皇居 <small>一蟲</small>	四三ノ二〇
五緒	三五ノ六	○快樂	三七ノ二	○皇族	三七ノ四
大きなる <small>ながえ</small>	三七ノ二	愚者の樂	三七ノ二	○光明眞言 <small>一追善</small>	四三ノ七
轆 <small>ながえ</small>	三七ノ二	靜かに一生を送る	三八ノ一	○荒涼	四四ノ二
物見 <small>くればけ</small>	三七ノ五	暫く樂ぶ	三六ノ三	○過去	四四ノ二
○吳竹 <small>くればけ</small>	四三ノ六	人生	三六ノ六	懷舊	三三ノ二
○鐵 <small>くろがね</small> —金	三八ノ八	生を樂む	三七ノ九	古き世	三三ノ六
○黒月	四二ノ二	道を樂む	四一ノ九	見ぬ古の跡	三三ノ二
○同	四四ノ一	欲 <small>ほしく</small>	四〇ノ六	臨終	三四ノ二
○くろみ棚	三八ノ四	樂といふは	四五ノ二〇	○過差	三七ノ一
○怪異	四三ノ二	六塵の樂欲	三二ノ二	○同	四三ノ四
牛	四三ノ二	○光陰	三七ノ二	○火災	三五ノ九
かへりてやぶる	四三ノ五	一日の事	三七ノ二	○過失	三四ノ三
狐	四四ノ二	何の爲にか惜む	三七ノ三	緩急	三四ノ三
○繪畫 <small>一書畫</small> を見よ	四三ノ九	無益の事	三八ノ九	佛道	三四ノ三
○廻鶺鴒 <small>(音楽)</small>	四三ノ九	惜むべし	三八ノ五	安き所に起る	三七ノ二〇

○欺 <small>くわじやう</small> 狀	四五ノ四	上卿	三三ノ三	蓮府	四三ノ九
○寛嚴	四三ノ九	隨身	四〇ノ五	胥弱の官人	四三ノ四
○管絃 <small>一音樂</small> 參照	三二ノ八	聖賢	三八ノ四	衛士	三七ノ二
ありたきこと	三二ノ九	大將	三八ノ七	○完全、不完全	三六ノ一
夷	三二ノ九	大理	三七ノ二	○灌佛	三七ノ二
○觀察	四三ノ一	道志	四三ノ三	○願望	四三ノ九
○元日の奏賀	三九ノ五	太政大臣	三六ノ五	惡念	四三ノ九
○官人、官職、官位	四三ノ一	拙き人	三三ノ三	此世に生れては	三七ノ三
章兼 <small>あきかね</small>	四三ノ一	舍人 <small>一舍人</small> を見よ	三七ノ六	財寶	四三ノ八
一の上 <small>かみ</small>	三六ノ六	主殿司	三七ノ八	死期の願	四五ノ四
一の人	三七ノ四	内記	三七ノ八	所願無量	四三ノ六
高位高官を望む	三三ノ五	典 <small>ないし</small> 侍	四二ノ一	妄想	四五ノ七
看督長 <small>かどのかさ</small>	四三ノ四	内辨	三七ノ八	道	四五ノ六
車の五緒	三五ノ六	北面 <small>ほくめん</small> 「北面」を見よ	三七ノ八	よろづの願	四五ノ二
外記	三七ノ三	勝れる人	三三ノ二	○願文	三五ノ九
檢非違使	四三ノ二	揚 <small>やうめい</small> 名目	四三ノ三		
相國	三六ノ七	揚 <small>やうめい</small> 名介	四三ノ三		

ケ	○怪異「怪異」を見よ	三三〇ノ三	多能	三八六ノ六	一言芳談	三七二ノ二
○稽古の譽	四四〇ノ二	拙きをも知らず	三九二ノ六	下腐の詞	三七九ノ二	
○藝能	四四〇ノ二	馬藝	四五〇ノ二	雙六のをしへ	三八〇ノ一	
愚にして謹める	四四〇ノ五	不堪の藝	三九三ノ一	○教相	三四〇ノ二〇	
學問藝能	三二八ノ七	勝りたるを喜ぶ	三九〇ノ五	○驕奢	三二八ノ二	
堪能の嗜まざる	四〇五ノ一〇	慢心	四二二ノ五	きよらを盡す人	三八七ノ三	
堪能の非家の人	四三三ノ三	名人	四〇五ノ二	四大事	四〇二ノ九	
志す人	四〇五ノ六	目の前の事	四二五ノ二	○孝養の心	四五六ノ二	
骨	四〇五ノ九	弓の師の誠	三六九ノ七	○樂欲	四〇一ノ六	
才藝の譽	四五六ノ二	よるづの道の人	四三三ノ三	○堯蓮上人	四〇一ノ六	
慈鎮和尚	四四九ノ一	老人	四二二ノ三	○穢	四三三ノ二	
上手に至らざる	四〇六ノ二	○競馬	三九二ノ二	入物	四三三ノ二	
上手の位	四〇五ノ一〇	○刑罰	四〇三ノ一	灸治	四〇五ノ二	
巧にして恣なる	四二四ノ五	○警蹕	四三二ノ九	神事	四〇五ノ二	
		○輕蔑	四四八ノ五	水火	四三三ノ二〇	
		○教育「男	三七七ノ五	○外記	三七四ノ三	
		○教訓		○下戸	三二八ノ九	

○華嚴院の弘辨僧正	四三三ノ二	寶劔	四二〇ノ二	實言	四四八ノ二
○外相「内證	四〇九ノ九	御國讓の節會	三三三ノ六	誇張	三六二ノ二
○下乗の卒都婆	四三二ノ八	○賢		詞多からぬ	三二八ノ三
○懈怠		偽りても學ぶ	三六五ノ七	才ある人	三四九ノ二〇
一時の懈怠	四二六ノ六	願ふ人	三三八ノ九	式といふ語	四二二ノ一〇
懈怠の心	三六九ノ一〇	○兼好自讀七ヶ條	四五一ノ一	下さまの人	三五九ノ一〇
後悔	四五六ノ三	○玄輝門院	三三六ノ九	多辯	三五八ノ九
○結縁	四〇四ノ三	○賢愚得失の境	三三九ノ一	人の物問ひたる返事	四四八ノ六
○血氣	四一五ノ八	○幻化	三六九ノ四	無作法	三六二ノ一
○桀紂が心	三八五ノ九	○言語		無益の談	四二一ノ八
○下人	三三〇ノ四	一日の事	三七八ノ二	よからぬ人	三四九ノ八
○けはれなく	四二九ノ三	今と昔	三三〇ノ八	よき人	三四九ノ七
○檢非違使の別當	四三三ノ二	交際	三六〇ノ一〇	律呂	四三三ノ四
○煙「鳥部山	三三〇ノ六	聞きにくからず	三八八ノ二	若き人の言うるばしき	四四八ノ三
○劔		虚言家	三八三ノ一〇	辨へたる	三六二ノ六
酒	三八七ノ二	虚言と人さまよく	四三〇ノ一	女	三七七ノ二
晝御座の御劔	四二〇ノ二	虚言のさまよく	三五九ノ五	○堅固かたほなる	四〇五ノ八

○現在
 今の一念 三七八ノ八
 希望なき現在 三七八ノ九
 道を學する人 三六九ノ二
 ○源氏の公卿 四三ノ八
 ○源氏物語 三五ノ四
 ○同 三八ノ六
 ○賢人―「聖人、賢人」を見よ 三五七ノ二〇
 ○玄上(琵琶) 四五三ノ七
 ○賢助僧正 四二四ノ六
 ○阮籍が青き眼 四三二ノ二
 ○眷屬の悪鬼惡神 四三二ノ二
 ○謙遜 三三三ノ四
 入りたぬさま 四四八ノ二
 よろづの科
 ○建築―「家、住居、建築」を見よ 四四二ノ二
 ○建治弘安の頃の放免 四四二ノ二

○賢女 三七八ノ三
 ○顯密の僧 四二ノ二
 ○儉約 いみじき人 三六九ノ九
 四大事 三八七ノ三
 世を治むる道 四三三ノ五
 ○建禮門院の右京大夫 四三三ノ二
 ○黙 有用と無用 三八五ノ六
 犬―「犬」を見よ 三八五ノ二〇
 牛―「牛」を見よ 三三三ノ一
 奇獸 狐―「狐」を見よ 三三三ノ二
 象 鹿 天性 ねこまた 三六七ノ八

鼠 三七二ノ二
 馬 三七二ノ二
 ○下薦 高名の木のぼり 三七九ノ二
 上薦 三七二ノ八
 コ
 ○子―「親子」を見よ 三三二ノ二
 ○小板敷 法華讀誦 まことの人 三五七ノ五
 ○功 三三八ノ二
 ○後悔 三四四ノ四
 ○同 四五六ノ三
 ○孔子 東首 三九二ノ八
 時に遇はず 四三六ノ四

○弘舞僧正 四三三ノ二
 ○後宇多院(大覺寺殿) 三七四ノ五
 ○紅梅―「梅」を見よ 三六三ノ三
 ○弘融僧都 不具なる物 三六四ノ九
 法顯三藏 三六四ノ九
 ○久我嘸 四二一ノ四
 ○金―「金」を見よ 三六六ノ八
 ○金―「財寶、金錢」を見よ 三七三ノ六
 ○久我の相國(雅實) 四三二ノ八
 ○久我内大臣 先をおふ 四三二ノ八
 地藏の木像 四三二ノ六
 ○小土器 四三八ノ五
 ○古今集 三三五ノ一
 ○五逆 三八〇ノ五
 ○虚空 四四九ノ五

○五月 三三八ノ一
 ○極樂寺 三六六ノ四
 ○九重 三三〇ノ二
 ○心 荒 夷と物のあはれ 四〇二ノ五
 偽 三六五ノ一
 犬の心 四二六ノ二
 移ろふ人の心 三三三ノ二
 縁にひかれて移る 三五〇ノ五
 愚かなるもの 三三二ノ三
 愚なるを知らず 三九二ノ五
 孝養の心 四〇二ノ九
 懈怠の心 三六九ノ一〇
 柴村が心 三八五ノ九
 賢より賢に 三八八ノ五
 事に觸れて來る 四〇九ノ四
 散亂の心 四〇九ノ八

死後 三三四ノ二
 慈悲の心 三八九ノ五
 しわざ 三九〇ノ二
 聖人の心 四三三ノ五
 錢積りて盡きざる時 四四〇ノ二
 道心 三五〇ノ三
 恒の心 四〇三ノ二
 都鄙 四〇一ノ九
 慰むもの 三三九ノ一
 濁 三三六ノ七
 ぬし 四四九ノ六
 念々の欲 四四九ノ六
 人の志 四三六ノ六
 不定 三六九ノ四
 惑ひ易き 三六〇ノ一〇
 慢心 四二二ノ二
 迷の心 三三九ノ一

食る心	三九三ノ三	後世を思ふ人	三七ノ五	五條の天神	四三ノ三
名利	三九ノ一	酒	四一八ノ二	孤獨	三六〇ノ九
用ゐること	四三六ノ九	住む所	三五ノ三	後徳大寺の大臣	三三ノ二
物に動く	四一五ノ八	〇後嵯峨院の御代	四四五ノ一〇	〇五徳の冠者	四四四ノ二
安き心	三四〇ノ三	一念の念佛	四三三ノ一〇	〇椗樋(女房)	三八二ノ二
安くす	三六一ノ二	式といふ語	四三三ノ一〇	〇詞「言語」を見よ	
病	三八九ノ二	〇飯	三五ノ九	〇後鳥羽院	
世に勝れたる	三三八ノ五	〇飯おとす	三五ノ八	樂府の御論議	四四四ノ二
老人	四一六ノ二	〇後七日の阿闍梨	三四ノ三	白拍子	四四四ノ九
若き時	四二五ノ八	〇故實「有職、故實」を見よ	三三ノ二	定家卿	四五ノ二
幼き心	三八九ノ九	〇小節	四三三ノ二	光親卿	三三二ノ九
女	三七七ノ一〇	〇御前の火爐	四三七ノ三	〇後鳥羽院の御代「式といふ語	四三三ノ二
〇心あらん人	三八五ノ八	〇小袖	四三三ノ四	〇異様のもの	三三九ノ九
〇志	四三六ノ六	〇同	四三八ノ二	〇理「理」を見よ	四四一ノ五
〇後世	三二九ノ九	〇木精	四四九ノ三	〇五の穴(横笛)	四四一ノ二
心に忘れぬ	三八〇ノ七	〇骨	四〇五ノ九	〇同	
後世の營み		〇五條の内裏	四四六ノ一		

〇近衛關白殿	四二ノ六	〇護摩する	四二〇ノ六	律呂	四三三ノ四
〇近衛殿「又五郎の事	三七四ノ二	〇護摩たく	四二〇ノ六	才藝	四二二ノ一〇
〇こはきもの	四三六ノ三	〇權化の人	四〇三ノ一〇	才藝の譽	四五六ノ二
〇小箱	三六八ノ四	〇權者の傳記	三五九ノ二	才ある人	四一三ノ六
〇碁盤「圍碁」を見よ	四〇八ノ六	〇虚無僧	三八三ノ二	第一の才能	三八五ノ二
〇小春の天氣		死を輕んず	三八三ノ二	大才	三九三ノ一
〇鯉		名	三八三ノ一	憑むべからず	四三六ノ四
養	三八四ノ一	ぼろく	三八二ノ四	なくなりぬれば	三八八ノ六
庖丁	四四六ノ五	〇巨益	四三三ノ一〇	風月の才	三六五ノ九
百日の鯉	四四六ノ七	〇粉雪	四二二ノ一〇	煩惱	三三八ノ九
やんごとなき魚	三八四ノ二	〇維繼中納言	三六五ノ九	無能	四四七ノ五
〇戀「戀愛」を見よ		〇伊通(九條太政大臣)	三三〇ノ二	老人	四三三ノ三
〇古弊	三七三ノ四	〇同(九條相國)	四五二ノ三		
〇故法皇(花園院)	三九四ノ七	〇聲			
〇狛犬	四四九ノ二	鐘の聲	四二二ノ八		
〇小松の御門	四三〇ノ二	元良親王	三九二ノ六		
〇護摩修する	四二〇ノ六	夜	四二八ノ三		

○才覚	三七四ノ一	多き	三三七ノ九	○貧人	三九一ノ一
○西行	三三二ノ二	神	四三九ノ二	○目的	四四〇ノ三
○細工		君	四三九ノ二〇	持たてあらまほし	四〇一ノ四
刀		近火	三五二ノ二〇	用ひざる	四四〇ノ四
必要	三六六ノ五	金	三三七ノ二〇	奴の如く用ふ	四三九ノ二〇
松下禪尼	四三三ノ二	同	三三七ノ二二	欲に従ふ	四三九ノ六
○齋宮	三三二ノ七	心長へに安く樂し	四四〇ノ一	○歳暮	
○祭月	四三三ノ二	死後	四〇一ノ三	あはれ	三三八ノ一〇
○妻子	四〇三ノ二	身後	三三七ノ二〇	晦日の夜	三三九ノ二
○最勝講の御聽聞所	三三二ノ二〇	人命	三七〇ノ二〇	追儼	三三九ノ二
○最勝講奉行	三三三ノ九	商人	三七八ノ六	春の急ぎ	三三九ノ一
○最勝光院	四五二ノ一	所願	四三九ノ八	○西明寺	四二一ノ六
○罪人		小人	三七二ノ一	○最明寺入道(時頼)	
答	四三三ノ六	錢	三五二ノ五	足利左馬入道を訪ふ	四三八ノ八
凍餒の苦	四〇三ノ三	憑むべからず	四三六ノ三	平宣時を招く	四三七ノ二
○財資、金錢		智者	四〇一ノ一	○齋王丸	三八一ノ九
一錢を累ぬ	三七八ノ五	恒の産	四〇三ノ二	○西城傳	四二一ノ五

○西園寺	三四四ノ二	○さうまき	四四四ノ七	○作文詩序	三五六ノ九
○西園寺の鐘	四四二ノ九	○相論	四二一ノ五	○櫻	
○西園寺内大臣		○才ある人	三四九ノ二〇	家にありたき木	三九九ノ二
資朝卿	四〇六ノ九	○柿	三三二ノ九	暹櫻	四〇〇ノ二
西大寺靜然上人	四〇六ノ九	○盃「酒」参照	四〇九ノ三	左近の櫻	三九九ノ二
○象	三二二ノ一	酒を思ふ	四〇九ノ二	ひとへなるよし	三九九ノ二
○早歌	四二四ノ二	酒を捨つる	四〇九ノ二	蟲のつきたる	四〇〇ノ二
○想像	三五八ノ三	玉の厄	三九二ノ四	八重櫻	三九九ノ二
○莊子南華の篇	三四四ノ八	○肴	四二七ノ二	同	四〇〇ノ一
○草紙「書籍」を見よ		○同	四一九ノ六	吉野の花	三九九ノ二
○相者	四四四ノ一〇	○同	四三八ノ三	○酒	
○雙調	四四一ノ四	○相模守時頼の母	四三三ノ九	悪	四一八ノ二
○雙なき馬乘	四三三ノ七	○壯なる人	三九三ノ二	飲酒の害	四一六ノ二
○相人	四〇四ノ一〇	○さざちやう	四二二ノ八	憂	四一八ノ一〇
○菖蒲	三九九ノ七	○前中書王	三三〇ノ二	老法師	四一八ノ一
○想夫戀	四三七ノ七	○夕の穴(横笛)	四四一ノ四	同	四一八ノ一
○相府蓮	四三七ノ七	○作文	三八七ノ七		四一八ノ七

下月	三二八ノ九	人に飲ませたる人	四二八ノ三	祭の折の	三九六ノ八
現世	四一八ノ九	百薬の長	四一八ノ九	前を行きかふ人	三九七ノ八
劔の譬	三八七ノ二	御酒	四一九ノ四	○指貫	三四一ノ二
後世	四一八ノ二	病	四一八ノ一〇	○作善	三九八ノ九
盃	四〇九ノ三	よからぬ人	四二七ノ三	○定實(土御門相國)	四三三ノ九
肴	四一七ノ二	よき人	四一九ノ八	○早苗	三八ノ二
同	四一九ノ七	禮儀	四二七ノ六	○讃岐典侍が日記	四三三ノ一
酒を好む人	三八三ノ一〇	男	三八ノ二〇	○實氏(常盤井の相國)	三七一ノ三
慈悲	四一七ノ六	女	四二七ノ二	○同(北山入道)	三八四ノ四
上月	四一九ノ一〇	○鮭	四二二ノ二	○實方	三六ノ一
酒宴の狂態	四一七ノ九	からざけ	四二二ノ二	○實定(後徳大寺の大臣)	三三二ノ二
酒亂の下部	三六六ノ一	素干	四三三ノ四	○實泰(洞院右大臣)	三七五ノ二
捨て難き折	四一九ノ二	○左近の櫻	三九九ノ二	○實雄(洞院左大臣)	三六四ノ六
善根	四一八ノ二	○佐々木隠岐入道	四三〇ノ六	○同(山階左大臣)	三七七ノ七
智恵	四一八ノ二	○棧敷	四二〇ノ五	○作法	四三三ノ二
手なきもの	四一八ノ二	うつ	四二〇ノ五	栲器	四三三ノ六
時頼と宣時	四三八ノ二	構ふる	四二〇ノ五	勅勅の所に観かくる	四三三ノ二

○雜人	三三九ノ二	草の庵と軍の陣	三九八ノ九	○重	四〇七ノ七
○三種の神器	三三三ノ六	期する所	三六〇ノ五	○自由	三三三ノ一
○山賊	三六六ノ五	財残る	四〇二ノ一	○同	四二四ノ四
○三條右大臣	四五〇ノ九	去る者	三三四ノ二	○詩歌	三八六ノ六
○三塔巡禮	四五二ノ二	死期	三九八ノ二	○宗(眞言宗)	三三二ノ二
○山門「門」を見よ	四〇八ノ八	同	四五五ノ二	○宗(念佛宗)	四四三ノ九
○散亂の心	四〇五ノ四	死人の譬	三七九ノ三	○衆議判	三二五ノ六
○三里	四五二ノ二	死門	四五六ノ二	○秀句	三六五ノ二
○佐理	四五二ノ二	死を恐る	三七〇ノ二	○終始	三九五ノ七
○去る者は日に疎し	三三三ノ二	中陰	三三四ノ七	○宗の法燈	三三二ノ二
シ		近きを知らず	三九二ノ七	○修理	四三三ノ四
○死、死後「生死」参照		近きを忘る	三七〇ノ二	○鹿	三三二ノ二
跡とふわざ	三三五ノ五	水の譬	三九七ノ一〇	○嗜好	三六二ノ八
命を終ふる大事	三九三ノ四	都の人	三九七ノ二	○式(語)	四三三ノ一〇
後に迫る	四〇八ノ九	物のあはれ	三三〇ノ六	○式(法律)	四三三ノ二
機嫌	四〇七ノ二	勇者の死	三六三ノ一	○四季「季節」を見よ	四〇五ノ二
		臨終	三四四ノ二		

○四季物語	三九ノ四	○仕丁	三三ノ四	○心より受く	三八ノ二
○色欲	三二ノ三	○使廳の評定	四三ノ二	○酒より起る	四八ノ二〇
○同 <small>しげみ</small>	四五ノ二	○失禮	三七ノ九	○盛親僧都	三五ノ一
○重躬	四〇ノ五	○失	三九ノ二〇	○主上の御惱	四三ノ二
○自讃	四〇ノ二	○争を好む失	四二ノ二〇	○外より来る	三九ノ一
○獅子	四四ノ二	○他に勝る失	四四ノ八	○大事の病者	四一ノ四
○侍従大納言公明	三七ノ六	○静(白拍子)	四四ノ八	○まつはれたる人	三八ノ二〇
○仁壽殿—吳竹	四三ノ六	○實行	三七ノ四	○無病健康の人	三八ノ九
○時正	四一ノ九	○質素	三九ノ一	○病のおもる	四五ノ二
○史書の文	四七ノ六	○嫉妬、羨望	三六ノ二	○癰疽	四四ノ六
○紙燭	四三ノ四	○賢を羨む	三九ノ三	○老人の分を知らざる	三九ノ四
○志太の某	四四ノ八	○鳥獸蟲	三九ノ三	○質朴	三七ノ一
○四重	三八ノ五	○疾病、病人—「藥」参照	三九ノ一	○四條	三四ノ三
○實有の相	三八ノ二	○愁	三九ノ一	○四條黃門	四四ノ一
○七徳の舞	四四ノ二	○冒すをも知らず	四七ノ二	○四條大納言(公任)	三六ノ五
○慈鎮和尚	四四ノ一	○機嫌	四七ノ二	○四條大納言隆親卿	四三ノ二
○使廳	四一ノ三	○氣のあがる病	三〇ノ一〇	○兒童童	四三ノ二

○慈悲	四〇ノ九	○神供	三五ノ二
○荒夷	三九ノ二〇	○神官	四五ノ三
○幼兒を苦しむる	三九ノ五	○新古今集	三五ノ四
○人倫	四〇ノ六	○眞言書	四三ノ二
○十月	四三ノ九	○眞言院	四二ノ八
○小春	四三ノ九	○神事	四〇ノ二
○神事に憚る	四三ノ九	○灸治	四〇ノ二
○四部の弟子	三九ノ七	○穢	四〇ノ二
○しほといふ文字	三九ノ一〇	○十月	四三ノ九
○信	三五ノ三	○人事	三六ノ三
○土大根敵と戦ふ	三八ノ一	○同	四一ノ九
○守らじ	四三ノ七	○神社	三三ノ一〇
○約束	四四ノ九	○伊勢	四四ノ八
○心戒(僧侶)	四六ノ九	○出雲の大社	三六ノ三
○信仰	四〇ノ八	○石清水	三五ノ一
○同	三七ノ一	○岩本	三三ノ二
○仁義—君子	三三ノ二	○梅宮	三三ノ二
○出雲大社の獅子	四五ノ四		
○言ひ辱めて興する	三八ノ八		
○小賢しき子	四四ノ五		
○齋王丸	三八ノ九		
○法師	三四ノ九		
○蒨 <small>しとみ</small>	三三ノ二		
○小蒨	三四ノ一		
○蒨の間	三二ノ四		
○人品 <small>しな</small>	三四ノ二〇		
○同	四二ノ二〇		
○品(家柄)	四四ノ二		
○信濃前司行長	四四ノ二		
○五徳の冠者	四四ノ二		
○平家物語	四四ノ二		
○指南—音調	四四ノ二		
○四方拜	三九ノ二		
○芝の上	四一ノ七		

大原野	三三ノ二	森のけしき	三三ノ九	所願無量	四九ノ六
春日	三三ノ二〇	吉田	三三ノ二二	慮世	三六〇ノ二〇
賀茂「賀茂」を見よ		夜の参詣	四九ノ六	生死	三七〇ノ四
貴船	三三ノ二二	〇眞乘院	三五ノ二一	虚言多き世	三五九ノ九
櫛に木綿かけたる	三三ノ九	〇人生、生涯		人間の營み	四二ノ一
参詣	四二ノ六	一時の懈怠	四二ノ六	如幻の生	四五六ノ七
忍びて籠る	三六ノ四	營み	三六ノ三	萬事は皆非也	三三九ノ二
十月の行幸	四二ノ二	榮枯盛衰	三三ノ二	まどひ	三六〇ノ二二
社頭の警蹕	四三ノ九	かりそめなること	三四ノ九	無益に一生を送る	三七九ノ一
住吉	三三ノ二〇	快樂	三六ノ六	無常	三三〇ノ六
太神宮	四三ノ一	願望	三二ノ六	無常の身に迫る	三四四ノ五
玉垣	三三ノ九	事と志	四二ノ九	無常變易の境	三六九ノ三
なまめかし	三三ノ八	雑事	三八〇ノ二	名利	三三七ノ九
橋本	三五ノ一	死	三三ノ六	夢	三六一ノ一
平野	三三ノ二〇	四季と生老病死	四〇八ノ八	世を食る	三三二ノ一
松の尾	三三ノ二二	静かに一生を過す	三八七ノ二	同	三五〇ノ八
三輪	三三ノ二〇	暫く樂ぶ	三六ノ三	醉	三六〇ノ二

〇神仙調	四二ノ五	〇下無調	四二ノ三	〇生死の相に與らず	三七ノ一
〇神泉苑	四二ノ八	〇笙一笛	四二ノ二〇	〇生死の到來	三四〇ノ四
〇神泉苑の池	四二ノ九	〇淨衣	四三ノ四	〇精進	三六五ノ九
〇眞俗	四〇八ノ三	〇聖海上人	四九ノ九	〇盛親僧都	三五二ノ一
〇糞太瓶	三七二ノ五	〇生 <small>しやうくわん</small> 活	三六ノ三	〇裝束「服装」を見よ	三六〇ノ八
〇寢殿「南枕	三九ノ九	〇正月、新年		〇常住	四〇八ノ一
〇新年「正月」を見よ		さきちやう	四二ノ八	〇生住異滅	四〇八ノ一
〇晋の王儉	四三ノ八	四方拜	三九ノ二	〇常住平生の念	四五六ノ一
〇神妙	四三ノ七	空	三九ノ六	〇正直	三六五ノ一
〇人倫	三八九ノ五	〇聖教	四〇ノ二	おのづから正直の人	四三九ノ二二
〇人倫に遠き振舞	三六三ノ二	〇上月	四九ノ二〇	富	三三〇ノ四
〇新院(花園院)	三三三ノ七	〇相 <small>しやうこく</small> 國	三六ノ七	〇聖徳太子	四四二ノ五
〇霜	三三八ノ九	〇常在光院	四五ノ五	〇同(太子)	三八七ノ五
〇下野入道信願	四〇四ノ五	〇生死 <small>しやうじ</small> 「生死」を見よ		〇淨土宗	三七七ノ六
〇下毛野武勝	三五四ノ二	〇障子		〇淨土寺の前關白(師教公)	三七八ノ六
〇管	四三三ノ六	松下禪尼が事	四三ノ二〇	〇商人	四〇六ノ八
〇下法師	四四〇ノ一〇	繪	三六三ノ四	〇靜然上人	

○上の穴(横笛)	四二ノ四	○宿執開發の人	四〇四ノ一	時を知る	三八八ノ四
○城 <small>じやうのすり</small> 介義景	四三ノ二	○主上の御憐	四三三ノ二	負けじと打つ	三八〇ノ一
○城陸奥守泰盛	四三ノ七	○出家	三九ノ九	○勝負のまけわざ	四四七ノ四
○生佛 <small>しやうぶつ</small> (盲人)	四四五ノ三	○出産	四〇七ノ二	○勝利	四四三ノ六
○聲明 <small>しやうみやう</small>	四四三ノ九	機嫌	三五三ノ八	○書簡	三三ノ二
○稱名 <small>しやうみやう</small> 追福	四四三ノ九	呪	三三九ノ二	○悪筆	三三ノ二
○情欲	四二五ノ八	○順徳院	三二九ノ二	○代筆	三三ノ二
○上臈 <small>じやうりやう</small> 下臈 <small>げりやう</small>	三七三ノ八	○舜を學ぶ	三六五ノ七	○古き	三四ノ五
○聖靈會 <small>しやうりやうかい</small>	四四三ノ七	○首楞嚴經	四二二ノ四	○無音の挨拶	四二四ノ七
○性惠法親王(綾小路の宮)	三三三ノ一	○證空上人	三七六ノ五	○雪のたより	三三五ノ九
○庄園	三三三ノ四	○乘願房	四四ノ六	○旅行先より都へやる	三三六ノ一
○釋迦念佛 <small>しやくぢやうにち</small>	四四五ノ二	○承仕法師	四二〇ノ二	○食 <small>く</small> 徳	三八六ノ四
○赤舌日 <small>しやくぜつにち</small>	三六八ノ二	○繩床 <small>じやうしやう</small>	四〇九ノ八	○食事 <small>く</small> 「飲食、食物」を見よ	三六二ノ八
○社頭の警蹕	四三二ノ九	○勝絶調	四二ノ四	○職分	三六二ノ八
○謝靈運 <small>しやくりやう</small> 惠遠	三七九ノ二	○證人	三五九ノ八	○食物 <small>く</small> 「飲食、食物」を見よ	三九四ノ五
○酒宴	四二六ノ一	○勝負事	三九〇ノ五	○所課	三九四ノ五
○宿河原	三八二ノ四	勝負を好む人		○書畫	

○悪筆	三三ノ二	○出産の繪	三三三ノ一〇	○多くて見苦しからぬ	三五八ノ二〇
○拙からず走り書	三八ノ八	○亡き人の遺物	三三四ノ四	○源氏物語 <small>「源氏物語」を見よ</small>	
○能書	三五二ノ二	○人の才能	三八五ノ二	○古今集	三五ノ一
○屏風障子などの繪	三三三ノ四	○所化	四三三ノ五	○莊子 <small>(南華の篇)</small>	三四ノ八
○所作	四三六ノ九	○諸司の下人	三三二ノ四	○新古今集	三五ノ四
○書寫の上人	三五七ノ五	○處世	四〇七ノ二	○西宮記	四三二ノ二
○機嫌	三六〇ノ二	○惑	三六〇ノ二	○政事要略	四三三ノ三
○書籍 <small>「讀書」参照</small>	三七三ノ二	○一言芳談	四三三ノ一	○先賢の書	三六四ノ四
○延喜式	四三三ノ一			○禪林の十因	三四四ノ七
				○道風書の和漢朗詠集	三六七ノ四
				○玉造	四一六ノ五
				○白氏文集	三四ノ八
				○文 <small>(經書)</small>	三二八ノ七
				○平家物語 <small>「平家物語」を見よ</small>	
				○北山抄	四三二ノ二
				○法事讚	四四三ノ一〇
				○枕草紙 <small>「枕草紙」を見よ</small>	
				○萬葉集	四三五ノ二
				○目錄	四一六ノ六
				○文選	三四ノ八
				○唐の書	三八四ノ二
				○老子	三四ノ八
				○李部王 <small>りほうわう</small> の記	三九一ノ六
				○梁塵秘抄	三三五ノ九
				○六時禮讚	四四五ノ八
				○論語 <small>「論語」を見よ</small>	
				○白川	三四四ノ二
				○白河院 <small>北首</small>	三九一ノ九
				○白拍子の起源	四四四ノ八
				○しら梵字	三八二ノ六
				○虱	三七二ノ二
				○事理	四〇九ノ九
				○思慮	三七九ノ四
				○しれたる女房	三七七ノ一

○しれもの	三四〇ノ三	好みて明し暮す人	三八〇ノ五	○住家「家、住居」を見よ	三三二ノ二〇
○しろうるり	三五二ノ二〇	上手の教訓	三八〇ノ一	○住吉	三三二ノ二〇
○白き絲	三三三ノ二	○鈴―内侍所	三三二ノ五	○寸陰	三七八ノ五
○慈惠僧正	四三三ノ八	○數珠	三四八ノ六	○するすみ	四〇二ノ二〇
○紫苑	四〇〇ノ九	○同	四〇九ノ七	○水干	四〇二ノ二〇
ス		○薄	四〇〇ノ八	蜘蛛のいかきたる	四四三ノ一
○透垣	三三三ノ七	○硯	三九八ノ八	白きに鞘巻をさくせ	四四四ノ七
○勝れたる人	三三八ノ二	筆の多き	四五〇ノ八	○隨身のふるまひ	四三二ノ二〇
○資季大納言入道	三三九ノ六	やない筥	四四九ノ二	○睡眠	三七八ノ二
○資朝卿	四〇七ノ八	○すゝるなる人	四四九ノ二	○末の世	三三〇ノ二
○西園寺内大臣	四〇六ノ九	○簾	三三三ノ二	セ	
○爲兼大納言入道を羨む	四〇七ノ一	葦の御簾	三三三ノ二	○生	三六〇ノ五
○むく犬	四〇六ノ二〇	暮春の家	三四一ノ七	○清閑寺僧正	四二〇ノ七
○雙六		○質朴	三七八ノ一	○西宮の説	四三二ノ二
		○篋子	三三三ノ七	○生活	三六二ノ三
		○周防内侍	三九八ノ二	諸縁をやめよ	
		○炭―御前の火爐	四三七ノ四		

生活の苦	四〇二ノ二	○聖人のいましめ	三七九ノ二	○世間の浮説	四二一ノ九
恒の産	四〇三ノ二	○聖人の心	四三三ノ五	○世事	三七九ノ四
○清獻公	四一五ノ二	○清暑堂の御遊	三五七ノ二〇	○世俗の事	四〇六ノ四
○成功	四二六ノ七	○盛衰	三六四ノ八	○節會	
○性骨	四一ノ二	○清少納言	三七七ノ二	任大臣	三七三ノ八
○生死―「死」参照		○政治	四三三ノ一〇	御國讓	三三三ノ六
愛憎	三七〇ノ八	起請文	四三三ノ一〇	○説經	四二四ノ七
出でんと思ふ	三五〇ノ四	儉約	四三三ノ五	○説經師	四二四ノ八
牛と飼主	三七〇ノ四	詩歌、音楽	三八六ノ七	○殺生	三八九ノ一
生死の相に與らず	三七〇ノ一	仁政	四〇三ノ四	○利那	三七八ノ七
生死の到來	三四〇ノ四	民の飢寒	四〇三ノ二	○説法	三八七ノ七
○精神	四一六ノ一	聖の御代	三八二ノ二	○是法法師	三八七ノ五
○聖人、賢人		本末	四一五ノ三	○蟬―命	三三〇ノ八
愚者の非難	三六五ノ三	○政治要略	四三三ノ三	○善惡	
賢女	三七八ノ三	○誠實	四四八ノ二	悪には疎く	三五〇ノ二
時	三三八ノ四	○招魂の法	四三三ノ二	不可は一條也	三三八ノ二
富	三三六ノ一〇	○小人―財	三七二ノ一	吉日悪日	三六九ノ五

酒	四八ノ二	〇先途	三六〇七	老法師	四五ノ一
四重五逆以上の悪事	三八〇ノ五	〇膳部	三五四ノ二	老法師と小童	四一八ノ七
善に近づく	三五二ノ一	〇千本の釋迦念佛	四四五ノ二	強盜法印	三四三ノ二
善に誇らず	三九〇ノ二	〇千本の寺	四五三ノ一	高野大師	四一六ノ六
不善の戯れ	四〇九ノ四	〇宣命	三七三ノ八	貌醜き	三九一ノ二
未曾有の悪行	三七六ノ九	〇禪林	三四四ノ八	唐の狗	三八七ノ九
〇善觀房	四四五ノ九	〇僧侶		木に登りて競馬見る	三四〇ノ一
〇善業	四〇九ノ八	足鼎被きたる僧	三四六ノ九	木の端	三七七ノ一〇
〇善根	四一八ノ二	あそび法師	三四八ノ一	禁獄	四一ノ四
〇前栽「庭園」を見よ		諸證の禪師	四二九ノ一〇	行雅僧都	三四〇ノ一〇
〇淺才の人	三八三ノ八	安樂	四五五ノ八	行法宣印	四三三ノ四
〇賤人	三八一ノ六	石清水詣の僧	三四六ノ三	具覺坊	三六六ノ一
〇先祖の譽	四二二ノ二〇	太秦の善觀房	四五五ノ九	藝能	四二四ノ二
〇選擇	四二五ノ八	優婆夷	三七六ノ八	堯蓮上人	四〇一ノ六
〇先達	三四六ノ八	優婆塞	三七六ノ七	權貴に交はる	三六一ノ五
〇先達後生を恐る	四四一ノ九			賢助僧正	四五三ノ七
〇禪定	四〇九ノ九			顯密の僧	四二一ノ二

弘舜僧正	四三五ノ二	清閑寺僧正	四一〇ノ七	梅尾の上人	四〇三ノ二
弘融僧都「弘融僧都」を見よ		説經師	四二四ノ八	頓阿	三六三ノ一〇
後七日の阿闍梨	三四三ノ三	是法法師	三八七ノ五	遁世の僧	三六六ノ二
虛無僧「虚無僧」を見よ		増賀聖	三七七ノ九	奈良法師	三六六ノ五
三昧僧	三九一ノ二	僧にならんとせし人	四二四ノ七	西大寺靜然上人	四〇六ノ八
慈鎮和尚	四四九ノ一	大衆	四五三ノ九	人情	三六四ノ一
四部の弟子	三七六ノ七	大納言法印	三六八ノ七	如輪上人	四四五ノ二
心戒	三四四ノ九	道眼上人	四二二ノ三	念佛三昧の聖	三四四ノ七
下法師	四四〇ノ一	道眼ひじり	四九三ノ四	比丘	三七六ノ七
聖海上人	四四九ノ九	導師	三八七ノ八	比丘尼	三七六ノ七
盛親僧都	三五二ノ一	同	四二四ノ九	ひたぶるの世捨人	三八一ノ一
證空上人	三七六ノ五	竹谷の乘願房	四四三ノ六	人に疎くてありなん	三六一ノ六
承仕法師	四二〇ノ一	兒誘ふ	三四七ノ二	人の上を知れる	三六一ノ一〇
所化	四五三ノ五	定額	四三二ノ一	法	三七二ノ一
書寫の上人	三七七ノ五	兵の道を立つ	三六二ノ八	法顯三藏	三六四ノ九
しろしあらん僧	三四八ノ五	寺法師	三六五ノ九	法然上人	三三九ノ二
慈惠僧正	四三三ノ八	登蓮法師	四二六ノ一〇	本寺本山	四二一ノ二

明雲座主	四〇四ノ二〇	○尊者	四六六ノ六	○大覺寺殿	三七四ノ五
文字の法師	四二九ノ二〇	○染紙	三三二ノ八	○大極殿	三九一ノ六
吉水和尙	三六六ノ三	○染殿大臣	三二〇ノ二	○太子(聖德太子)	四四三ノ五
隆辨僧正	四三八ノ二〇	○染物	四三八ノ二二	○大事	
律師	三九一ノ二二	○空	三九六ノ六	急ぐべし	四二五ノ九
連歌しける法師	三六七ノ二〇	新年	三二九ノ九	一 大事の因縁	四二七ノ四
圓伊僧正	三六五ノ九	空のなごり	三四一ノ五	一の大事	四二六ノ八
○總門	三四二ノ二	暮春	四四九ノ五	命を終ふる大事	三九三ノ四
○賊	三七二ノ一	よくものを容る	三五九ノ九	思ひ立たん人	三五二ノ四
○息災なる人	四一七ノ三	○虚言―「言語」を見よ		公私の大事	四一七ノ六
○俗姓―堯蓮上人	四〇一ノ六	○虚言多き世	三五九ノ九	終焉	四〇三ノ二〇
○續飯 <small>そくひ</small>	三五七ノ二一	夕		生住異滅の移り變る	四〇八ノ一
○譏	三九二ノ八	○田	三五五ノ七	俄の大事	三八〇ノ八
○卒都婆	三三九ノ三	○同	四三五ノ六	人間の三大事	三八六ノ二
○同	四三二ノ八	○攤 <small>たな</small>	四〇九ノ四	人間の四大事	三八七ノ二
○園別當入道	四四六ノ五	○第一の事	四二五ノ九	まことの大事	四一六ノ二〇
○孫長	三二七ノ二			○大師勸請の起請	四三二ノ八

○太神宮	四三三ノ二〇	建築	三三六ノ八	○道人	三七八ノ八
○太神宮の遙拜	三九一ノ二	造り果てぬ處を殘す	三六四ノ三	○道心者	三五二ノ九
○大臣の大饗	四〇八ノ三	○大理の座	四三四ノ一	○堂上す	三七三ノ八
○大將	三八八ノ七	○盜		○當代	四五二ノ五
○大衆	四五三ノ九	親、妻子の爲	四〇二ノ二	○道場	三八二ノ九
○太衝の太の字	四二一ノ五	窮乏	四〇三ノ二	○唐土	四三二ノ四
○大食	三五二ノ二	國に賊あり	三七二ノ一	○桃李	三三一ノ一
○怠惰―「懈怠」を見よ		後七日の阿闍梨	三五四ノ三	○鷹	
○臺所の棚	四三八ノ五	貧者	三九一ノ三	生きたる犬の足	三八八ノ九
○大納言法印	三六八ノ七	まことの盗人	四〇三ノ六	大鷹と犬	四一六ノ八
○大に就き小を捨つる	四二六ノ八	破籠を盗む	三四八ノ九	小鷹と犬	四一六ノ八
○大福長者	四三九ノ二	○道具―「器物、道具」を見よ		弱腰をとる	三五五ノ九
○退凡下乗の卒都婆	四三三ノ八	○道眼 <small>だうげん</small>		○鷹飼	三五四ノ一
○大門	四二二ノ四	一切經	四二二ノ三	○高倉院の法華堂の僧	三九一ノ二
○大理	三七三ノ二	八災	四三三ノ四	○隆親卿―からざけ	四三三ノ二
○内裏		○道志	四三三ノ三	○高遣戸	三三二ノ二
五條の内裏	四四六ノ一	○道心	三五〇ノ三	○寶	三八五ノ二

○財「財寶」を見よ	三三九ノ七	○達人の人を見る眼	四三〇ノ一	○たんばのこゆき	四二一ノ二〇
○薪	四四三ノ六	○田鶴のおほいどの(基家)	四四四ノ一	○談話、物語	三三三ノ二二
○竹谷の乗願房	三四一ノ二〇	○奉物	三九ノ三	○同じ心ならん人	四四七ノ五
○竹のあみ戸	三三七ノ七	○七夕	三三八ノ三	○小賢しき子	四二一ノ九
○竹の園生	四一七ノ七	○多能	三六ノ六	○世間の浮説	四一四ノ六
○他國の風	三六八ノ八	○樂「快樂」を見よ	四三六ノ二	○のどかなる	四二一ノ九
○多少	三七〇ノ一	○悉む	四三六ノ二	○人の是非	四二一ノ九
○たゞ今の一念	三七八ノ八	○平宣時朝臣	四三六ノ二	○爲兼大納言入道	四〇七ノ一
○同	三七八ノ八	○玉	三三九ノ一	○爲則	三八一ノ二〇
○たゞうど	三二七ノ八	○玉垣	三三九ノ一		
○同	四二〇ノ二	○玉造といふ書	四六六ノ五	子	
○忠守(醫師)	三七四ノ五	○玉の厄 <small>さかづき</small> の當なき	三九ノ四	○智、智惠	三三八ノ九
○たゞり	四三四ノ二〇	○魂祭	三九ノ五	○偽	三三八ノ九
○太刀	三三三ノ二	○民	三八ノ二	○財産	四〇一ノ一
○桶	四〇〇ノ七	○談義	四三三ノ四	○酒	四一八ノ二
○龍秋(樂人)	四四一ノ一	○同	三五二ノ二	○智者は愚者	三六六ノ八
○たづ君	四四四ノ一	○檀那	四四四ノ二	○人に争ふ	四二二ノ八

人に勝らん事を思はゞ	三九〇ノ二〇	○中の穴(横笛)	四四一ノ五	○珍奇	三三三ノ七
人の智をばかる	四二九ノ七	○近づかまほしき人	四二九ノ九	○淺才の人	三三三ノ七
分を知る	三九一ノ二	○近友	四五〇ノ二	○よからぬ人	四〇〇ノ二
まことの智	三三八ノ二〇	○力一老人	三九一ノ一	○定額 <small>ぢやうがく</small> 一諸寺の僧	四三三ノ一
まことの人	三三八ノ二	○持經	三二二ノ五	○定額の女孺	四三三ノ一
勝りたるを興とす	三九〇ノ八	○畜生殘害	三八八ノ一	○廳屋	三七三ノ二
無智	三九三ノ一	○竹林院入道左大臣	三六四ノ五	○着陣	三七四ノ二
同	四四七ノ五	○畜類一人	三五二ノ三	○勅勸	四三三ノ二
求むる人	三三八ノ九	○兒	三三三ノ七	○勅書	三七二ノ三
善き友	三三三ノ二	○比叡の兒	三四七ノ二	○塵塚の塵	三五八ノ一〇
世に勝れたる	三三八ノ五	○御室の兒	三四七ノ二		
○誅	四三六ノ五	○地獄	四一八ノ二	ツ	
○柱	三九七ノ二	○遅速	四二七ノ三	○圖(音樂)	四四二ノ四
○同	四四七ノ八	○持佛堂	三五八ノ八	○ついがされ	四三三ノ一〇
○中陰	三三四ノ七	○陣	三三三ノ三	○築地	四一八ノ六
○忠孝のつとめ	三八六ノ二	○上卿事を行ふ	三三三ノ三	○通號	四三三ノ二
○住持	四〇二ノ三	○夜の設	三三二ノ二	○月、月夜	

曉	三九五ノ二〇	冬	三三八ノ二	暮	四二九ノ七
秋	四三七ノ一	むら雲がくれ	三九五ノ三	物を一具に整ふ	三六四ノ一
雨	三九五ノ二	目にて見るものかは	三九六ノ二	〇拙きを知る	三九二ノ一〇
有明月	三七六ノ一	望月	三九五ノ一〇	〇土大根	三五六ノ一〇
ある人	三三六ノ一	同	四五五ノ二	〇土御門相國	四三二ノ九
朧月	四五五ノ八	夕月夜	三七四ノ九	〇つと	四五〇ノ二
九月十三日	四五四ノ八	よき人の家	三三二ノ五	〇綱	三三二ノ一
隈なき	三九五ノ二	夏夜	四五四ノ八	〇恒の心	四〇三ノ二
水の間のかけ	三九五ノ二	婁宿	四五四ノ八	〇恒の産	四〇三ノ二
酒	四一九ノ二	慰籍	三九九ノ二	〇角あるもの	四二二ノ八
椎柴白樫の葉の上	三九五ノ二	〇撞鐘	四五二ノ五	〇兵	三九八ノ六
月と露	三三九ノ二	〇次さまの人	三九九ノ五	〇妻	四二七ノ二
閨	三九六ノ二	〇作花	三五五ノ二	〇妻戸	三三六ノ四
配所	三三九ノ二	〇つけもの	四四二ノ二	〇同	三四一ノ七
墓所	三三五ノ三	〇葛	四〇〇ノ九	〇爪	四四七ノ一〇
八月十五日	四五四ノ八	〇拙き人	三五八ノ三	〇露	三四〇ノ六
笛吹く男	三四一ノ一〇	官位		あだし野	

月と露

〇貫之	三三九ノ二	〇庭園	三五八ノ八	〇趙抃(清獻公)	三三六ノ三
〇鶴	四四四ノ一	石草木の多き	四四四ノ二	〇出過ぎたる人	四一五ノ二
〇鶴岡の社參	四三八ノ八	徒らに廣き	三三三ノ九	〇鐵一金	三六八ノ八
〇つれづれ	三七七ノ一	心の儘ならぬ	四四四ノ四	〇手なきもの	四一八ノ二
〇つれづれわぶる人	三六〇ノ九	島	三四一ノ五	〇天下を保つ程の人	四二二ノ六
〇追善	四四三ノ六	暮春	三九五ノ三	〇傳記	三五八ノ二
〇追儼	三七三ノ二	落花	三三三ノ六	〇殿上人	四四ノ六一
次第	三三九ノ二	わざとならぬ	四三八ノ二	妖物	四四ノ六一
年の暮	三七三ノ二	〇銚子	四三二ノ二	武を好む	三六二ノ一〇
〇追儼の上卿	四四三ノ九	〇調子	四四二ノ六	〇天性一藝能	四〇五ノ九
〇追福	四四三ノ九	鐘	四四一ノ三	〇傳説の眞偽	三五八ノ二
テ		横笛	三三三ノ二	〇顛倒の相	四五七ノ一
〇定家(京極入道中納言)	四〇〇ノ五	倚慮の御所	三五八ノ八	〇天地	四三六ノ一〇
〇同	四五二ノ二	多き	三三三ノ四	〇天竺一法顯三藏	三六四ノ九
〇帝王「君」を見よ	四五二ノ二	主人の心	三三三ノ七	〇天王寺の舞樂	四四二ノ三
		昔覺ゆる		〇天王寺の伶人	四四二ノ三

○寺

- 朽廢 三三三ノ三
- 西明寺 四二ノ六
- 忍びて籠る 三六ノ四
- 寺院の號 三八三ノ四
- 天王寺 四三ノ三
- 東大寺 四三ノ八
- 那蘭陀寺「那蘭陀寺」を見よ 四二ノ二
- 仁和寺「仁和寺」を見よ 四二ノ二
- 遍照寺 四二ノ二
- 法成寺「法成寺」を見よ 三六五ノ二〇
- 三井寺 三六ノ七
- 山寺に籠る 三六ノ七

ト

- 冬至 四二ノ八
- 東寺の若宮 四三ノ九

- とうしみとらじやう 四三ノ一
- 鬮とらじやう 三三ノ六
- 同 三八三ノ二
- 東大寺の神輿 四三ノ八
- 藤大納言 四六ノ一
- 凍餒の苦 四三ノ三
- 動物虐待 三八五ノ七
- 同 三八八ノ一
- 登蓮法師 四六ノ二〇
- 洞院右大臣（實泰） 三七三ノ二
- 洞院左大臣（實隆） 三六四ノ六
- 科とが 四八ノ二
- あらじと思はゆ 四三ノ七
- 牛馬の主 四三ノ七
- 内心の科 四二ノ二
- 人を蔑にする 四四八ノ五
- 科とがのもの 四三ノ三

- 榊尾上人とがの 四三ノ二
- 時 三三八ノ四
- 遇はぬ 三三八ノ三
- 遇ふ 四三六ノ四
- 孔子 三七三ノ六
- 土器 四二七ノ三
- 敏き時は則ち功あり 三七一ノ三
- 常磐井の相國（實氏） 三五三ノ四
- ときひじ 三六五ノ九
- 讀經 三五七ノ五
- 惟繼中納言 四二ノ九
- 法華讀誦の功 三九〇ノ七
- 時頼「最明寺入道」を見よ 三五三ノ七
- 時頼の母 三六ノ一〇
- 徳 四二ノ九
- 己を専とする徳 四二ノ九
- 盛親僧都 三六ノ一〇

食

- たけたるさま 四〇六ノ八
- 憑むべからずつちおほね 四三六ノ四
- 土大根 三五七ノ四
- 人の徳 四二ノ九
- 貧 三七二ノ八
- まことの人 三三八ノ二

○得失

- 愚にして謹める 四二四ノ五
- 巧にして恣なる 四二四ノ五

○得失の境

- 三三九ノ一

○獨身

- 四二七ノ二

○讀書「書籍」参照

- 古人を友とす 三四ノ七
- 暮春の家 三四ノ八
- 徳大寺右大臣（公孝） 四三ノ二
- 徳大寺實基（相國） 四三ノ三

○得失

- 徳大寺實基（この大臣） 四三ノ一〇
- 徳大寺の太政大臣 三三ノ六
- 年「年齢」を見よ 三三ノ六
- 年の暮「歳暮」を見よ 三六四ノ二
- 整りたるは悪し 三七二ノ五
- 舍人 四四〇ノ九
- 同 三七三ノ六
- 主殿司 三三〇ノ九
- 主殿寮の人数だて 三五四ノ三
- 宿直人 三九一ノ五
- 鳥羽殿 三九一ノ五
- 鳥羽の作道 三九一ノ五
- 鳥羽院 四二二ノ二
- 鷹 三三二ノ三
- 扉「法成寺 三三二ノ八
- 遠き物 三八五ノ二
- 富 三三二ノ二

- 一錢を累ぬ 三七六ノ六
- 賢人 三六ノ一〇
- 四大事 三八七ノ二
- 徳をつく 四三九ノ二
- 富を得る方法 四三九ノ三
- 貧富別くる所なし 四四〇ノ八
- 頓阿 三六三ノ一〇
- 遁世 三五二ノ二
- 遁世者の覺悟 三七二ノ七
- 遁世の僧 三六六ノ二
- ひたぶるの世捨人 三二八ノ一
- 人たるしるし 三五二ノ一
- 貪慾「欲、貪慾」を見よ 三三二ノ二
- 友 三三二ノ二
- 同じ心ならん人 三三二ノ二
- 心の友 三三二ノ二
- 談話 四二四ノ四

つゆ違はざらん人	三四ノ一	珍禽	三五ノ二〇	太秦殿の女房の名	三八ノ二
見ぬ世の人	三四ノ七	鶴	四四ノ一	面影	三五ノ二
善き友三	三八三ノ二	天性	三八九ノ二	強盜法印	三四三ノ三
わるき者七	三八三ノ九	鷓鴣	三三三ノ二	寺院の號	三八三ノ五
〇具氏宰相中將	三九三ノ六	鶏	三七五ノ六	人の名	三八三ノ七
〇具守(堀河内大臣)	三七七ノ四	春	四三五ノ二	童名	四四ノ一
〇鳥		梟	三二七ノ七	〇名「名譽」を見よ	
有用と無用	三八五ノ六	喚子鳥	四四九ノ三	〇内記	三七三ノ八
枝につくる	三五四ノ二	王子猷	四三九ノ二	〇内外の文	三六四ノ四
大雁	四二ノ二	〇鳥柴の故實	三八五ノ九	〇内侍所(鏡)	三三三ノ六
烏	三三三ノ三	〇鳥部野	三九五ノ二	〇内侍所	
雁「雁」を見よ		〇鳥部山の煙	三九七ノ二	御神樂	四一〇ノ二
雉「雉」を見よ		〇名	三三〇ノ六	御鈴の音	三三一ノ五
水雞	三三八ノ二	異名	四四ノ二	〇典侍	四二ノ一
心慰ぶ	三三〇ノ四	ナ		〇内證「外相	四〇九ノ九
承仕法師	四二〇ノ二			〇内辨	三七三ノ八
鷹「鷹」を見よ				〇臈鹿茸	四〇五ノ五

〇中子	三三ノ八	〇なりひさこ	三六ノ二	〇二品禪門(行忠)	四一〇ノ四
〇牛空	四二八ノ七	〇業平	三六ノ一	〇人我の相	三七七ノ一〇
〇なか人	四五五ノ二	ニ		〇人間「人」を見よ	四三九ノ四
〇長押	三七六ノ一	〇膠	三八四ノ一	〇人間常住のおもひ	四三九ノ四
〇謎々	三七四ノ五	〇二月	四四二ノ七	〇人數たて	三三〇ノ九
〇夏		〇西大寺靜然上人	四〇六ノ八	〇任大臣の節會	三七三ノ八
秋は通ふ	四〇八ノ五	〇二の舞の面	三四三ノ一	〇仁和寺	
曙の別	三七五ノ九	〇庭「庭園」を見よ		足鼎を被きたる僧	三四六ノ九
住居	三四八ノ二	〇雞	三七五ノ六	石清水詣の僧	三四六ノ三
〇撫子	四〇〇ノ八	〇庭の儀		狐	四四〇ノ九
〇四十九日の佛事	三八七ノ七	乾砂子	四二〇ノ一〇	眞乘院	三五二ノ一
〇繩	三三二ノ二	故實	四二〇ノ一〇	兒誘ふ僧	三四七ノ二
〇同	三三三ノ二	〇入宋の沙門	四二二ノ三	〇如幻の生の中	四五六ノ七
〇那蘭陀寺	四二二ノ四	〇にほひ	三三三ノ三	〇女性	四二二ノ五
大門	四五三ノ四	〇旬	四二九ノ一	〇女孺	四三一ノ一
道眼聖の談義	三九二ノ二	〇日本一單律の國	四三二ノ四	〇如輪上人	四五二ノ二
〇奈良の都				〇女院の御所	四〇九ノ二

○にれうち噛みて	四三四ノ一	九品の念佛	三八二ノ四	○信清(太秦殿)	三八二ノ一
○鶴―招魂の法	四三五ノ二	景法法師	三八七ノ五	○宣時朝臣	四三七ノ二
○主ある家	四四九ノ二	千本の釋迦念佛	四四五ノ二	○野山―酒	四一九ノ六
○盗―「盗」を見よ	三三三ノ二	追善	四四三ノ八	○野分	三三八ノ五
○布の帽額	三三三ノ二	念佛三昧の聖	三四四ノ七		
		睡	三三九ノ三		
木					
○ねこまた	三六七ノ八	○農	四〇三ノ五	○沛艾の馬	四〇四ノ八
○鼠	三七二ノ二	○能ある人	三三二ノ七	○配所―月	三二九ノ二
○涅槃會	四四二ノ七	無能	三七二ノ八	○寶買	三七〇ノ二
○年齢	三九二ノ六	旅行先	三三六ノ三	○坊	四五一ノ五
老いぬるをも知らず	三九二ノ六	○能書	三五二ノ二	○寶劍	四二〇ノ二
數へて知る	三九二ノ八	○能をつかんとする人	四〇五ノ六	○放言	三七六ノ二
○念佛	四四五ノ九	○鋸の屑	四二〇ノ九	○寶藏	三五三ノ一〇
一念の念佛		○荷前の使	三八八ノ二	○坊主	三六五ノ一〇
		○野宮	三三二ノ七	○庖丁者	四四六ノ五
				○胞腹(女房)	三八二ノ二
				○放免	四四二ノ二

○訪問	四二四ノ二	○妖物	四四六ノ一	○八月十五日	四五四ノ八
長居	四二四ノ二	栗形の緒	三七二ノ七	○蓮	
用事なきに行く	四二四ノ二	小箱	三六八ノ四	池	四〇〇ノ八
○放埒	四〇六ノ一	手箱	三七二ノ九	王儉	四三七ノ八
○墓		文の箱	三七二ノ八	○八災	四五三ノ四
けうとき山	三三五ノ二	○箱風情のもの	三四八ノ二	○花	
田となる	三三五ノ七	○鳥	四四四ノ四	歌の詞書	三九五ノ四
古き墳	三四四ノ一	○秦の重躬	四四四ノ五	片田舎の人	三九六ノ四
○博士	四〇六ノ一	○恥	四四四ノ五	唐めきたる名	四〇〇ノ二
○はかせ(範)	四四二ノ五	汗	三九〇ノ一	心つく	三三〇ノ一
○萩	三三八ノ四	怒り恨むる事勿れ	四三九ノ二	咲きぬべき程の楡	三九五ノ三
○同	四〇〇ノ八	近火	三五二ノ一〇	酒	四一九ノ二
○博學の士	四〇三ノ一〇	生活の苦	四〇三ノ二	散り萎れたる庭	三九五ノ三
○白氏文集	三三四ノ八	長命	三三〇ノ一〇	作り花	三五五ノ二
○博奕	三八八ノ三	人に愛樂せられぬ	三九二ノ二	鳥つくるすべ	三五四ノ一
○白頭の人	三九〇ノ三	人の與ふる	三九三ノ三	花の盛	四二〇ノ九
○馬藝	四五〇ノ二			目にて見るものは	三九六ノ二

○花(草を含む)	ヤウ〜景色だつ	三二七ノ八	桃李	三三ノ二	○法曹	四三三ノ九
朝顔	四〇〇ノ九	蕩	四〇〇ノ九	○法令	四三三ノ一〇	
葵「葵」を見よ	三三八ノ一	撫子	四〇〇ノ八	○はまゆか	四三四ノ一	
菖蒲	三三八ノ一	萩「萩」を見よ	三三九ノ二	○萬有「幻化	三六九ノ四	
梅「梅」を見よ	四〇〇ノ八	蓮「蓮」を見よ	三三九ノ二	○盤渉調	四四一ノ五	
杜若	四〇〇ノ八	花橋	三三九ノ二	○萬事は皆非也	三三九ノ二	
荊萱	四〇〇ノ九	藤「藤」を見よ	四〇〇ノ九	○萬事本を正しくすべし	四二五ノ一	
黄菊	四〇〇ノ九	藤袴	四〇〇ノ九	○判断	四二五ノ八	
菊	四〇〇ノ九	山吹「山吹」を見よ	三三八ノ三	○犯人	四三三ノ六	
桔梗	四〇〇ノ八	夕顔	四〇〇ノ九	○萬人の師	四〇六ノ一	
葛	四〇〇ノ九	龍膽	四〇〇ノ九	○腹ふくるとわざ	三三八ノ七	
紅梅「梅」を見よ	三九九ノ七	吾木香	四〇〇ノ九	○春	三二七ノ九	
菖蒲	三九九ノ七	萩	四〇〇ノ八	雨風	三二七ノ九	
櫻「櫻」を見よ	四〇〇ノ九	女郎花	四〇〇ノ九	家を立ち去らで花を思ふ	三九六ノ二	
紫苑	四〇〇ノ九	花園の左大臣	三三〇ノ二	清げなる男の讀物	三四一ノ五	
薄	四〇〇ノ八	○花橋	三三〇ノ二	景色	三七七ノ六	
		○法(法律)	四〇三ノ三	鳥の聲	三二七ノ七	

夏の氣	四〇八ノ四	○僻事する人	三六六ノ九	○棺	三九八ノ一
花	三二七ノ八	○東	三九一ノ八	○筆受	三七九ノ二
雪佛	四二二ノ一	○東三條殿	四〇八ノ二	○筆蹟「書畫」を見よ	四〇一ノ六
ゆくへ知らぬ	三九五ノ二	○東山	三四五ノ二	○悲田院	四〇一ノ六
喚子鳥	四三五ノ二	○比丘	三七六ノ七	○人	三六六ノ二
○春の草	三三五ノ六	○比丘尼	三七六ノ七	衣食住	三六六ノ二
		○日暮れ途遠し	三八〇ノ二	命	三二〇ノ七
ヒ		○秘藏	四四二ノ七	同	三五二ノ一〇
○日		○秘藏のこと	四四二ノ七	願望	三二七ノ三
吉凶	三六九ノ一	○ひさくの柄	四四七ノ二〇	心	三二一ノ三
赤舌日	三六八ノ二	○膝幸(女房)	三八二ノ二	五十にして藝の拙き	四〇六ノ二
人の死なざる日	三九七ノ三	○久資	四四四ノ六	四十以後の人	三八一ノ四
一日の事	三七八ノ二	○膝突	三七四ノ三	同	四〇五ノ四
○火一穢	四三三ノ二〇	○非修非學の男	三七六ノ二〇	慈悲の心	三八九ノ五
○比叡(延暦寺)	四三三ノ八	○ひじりめ	四一五ノ一	性	四三六ノ二
大師勸請の起請	四三三ノ八	○直垂	四三七ノ二	所願無量	四三九ノ六
兒	三三三ノ七	○筆策	三三六ノ五	少し心ある際	三五一ノ八

○不具	三六四ノ一	○佛事	四三ノ七	○不便 <small>ふびん</small> のわざ	四〇三ノ四
○不具者	四〇七ノ四	○加持香水	三六二ノ二	○文「文章」「書籍」「書簡」を見よ	三二八ノ七
○文車の文	三五八ノ二〇	○さまたげ	三八七ノ七	○文章 <small>さくもん</small>	三二八ノ七
○梟	四四九ノ三	○四十九日の佛事	三五九ノ二	○昔の反古	三三〇ノ七
○ふしはかせ	四四五ノ九	○佛前の奇特	四四四ノ九	○文武醫の道	三六〇ノ三
○不信	四〇九ノ二〇	○佛前の本縁	四〇九ノ七	○分別	三六〇ノ二
○府生段 <small>ふしやう</small> の御馬	四〇四ノ二	○佛前―善業	三九ノ二〇	○分を知る	三九ノ一
○覺鐘調 <small>あきね</small>	四四一ノ四	○佛道―「佛、佛教」を見よ	三三八ノ二	○冬	三七五ノ二
○臥猪 <small>ふし</small> の床	三三四ノ二	○佛法―「佛、佛教」を見よ	四〇九ノ三	○曉の物語	四一九ノ五
○不善のたはふれ	四〇九ノ四	○佛名	三三八ノ二	○酒	三四八ノ二
○藤	三三〇ノ二	○筆	三五八ノ八	○住居	三四八ノ二
○藤原氏	三三三ノ四	○硯に多き	四〇九ノ三	○月	三三八ノ二
○藤袴	四〇〇ノ九	○もの書く	四〇九ノ三	○冬枯	三三八ノ八
○不定 <small>ふぢやう</small>	四二七ノ二	○やない筈	四〇九ノ三	○ふるき人	四三六ノ四
○佛教―「佛、佛教」を見よ	三三〇ノ二	○舟岡	三九七ノ二	○古き世	三三〇ノ六
		○船―「るこし船」	三八五ノ一	○ふれ―「こゆき」	四二二ノ一〇

○平家物語	四四五ノ四	○邊土	四四二ノ三	○佛、佛教	三六二ノ九
○蒲 <small>かほ</small> の冠者	四四五ノ四	○辨の乳母	三九ノ九	○夷	四二八ノ二
○九郎判官の事	四四五ノ二	○便利	三七八ノ二	○成	四一九ノ一
○作者 <small>しやう</small>	四四五ノ三	○寶篋印陀羅尼―追善	四四三ノ七	○酒	四二九ノ六
○生 <small>しやう</small> 佛に語らす	四四五ノ三	○反古 <small>ほんこ</small>	三三四ノ三	○參詣	四〇二ノ二
○へたなり	三三七ノ一	○火影 <small>ひかげ</small>	四二八ノ二	○聖教	四〇二ノ二
○別殿の行幸	四二〇ノ二	○北山抄	四三二ノ二	○聖教の一句	四〇九ノ五
○蛇	四三〇ノ二	○北斗	三三七ノ一〇	○推量	四三二ノ二
○大井川に流す	四三四ノ二	○北面	三三七ノ一〇	○第一の佛	四五七ノ六
○神	四三四ノ八	○勅書	四〇四ノ五	○持佛堂	三五八ノ八
○龜山殿	四三四ノ七	○下野入道信願	三七二ノ三	○丈六の佛	三三二ノ七
○徳大寺實基 <small>(大臣)</small>	四三四ノ一〇	○法花堂	三三二ノ九	○仕うまつる	三三二ノ七
○變化 <small>へんげ</small> の理	三六〇ノ八	○鋒―放免	四四三ノ五	○佛道を願ふ	三三三ノ一〇
○遍照寺	四一〇ノ二	○菩提 <small>ぼだい</small>	三五二ノ二	○佛問答	四五七ノ二
○辯説	三五二ノ二	○法燈 <small>ほつとう</small>	三五二ノ二	○道	三二九ノ九
				○無常を知る	三四四ノ五
				○夜の參詣	四二九ノ六

老少	三四ノ一	法花堂	三三ノ九	○本尊	三七ノ五
教	三八ノ一	無量壽院	三三ノ七	○煩惱—才能	三八ノ一〇
○時鳥	三七ノ二	○法成就の池	四二ノ九	○本文	四三ノ九
○法—僧	三七ノ一	○法然上人	三三ノ九	○堀河大納言(師信)	四五ノ五
○法顯三相	三六ノ九	念佛	三三ノ二	○堀河殿—狐	四四ノ九
○法顯傳	四二ノ五	往生	三三ノ五	○堀河内大臣(具守)	三七ノ四
○法金剛院の鐘の聲	四三ノ二	○法然上人の弟子	四四ノ八	○堀河の相國(基具)	三七ノ一
○法師—「僧侶」を見よ	四四ノ二〇	○譽—「名譽」を見よ	四五ノ二	○堀河院	三三ノ三
○法事讚	四四ノ七	○本歌	四五ノ二	○ぼろ	三八ノ五
○法師にならんとせし人	四四ノ七	○本經	四四ノ二	○ぼろノ—(虚無僧)	三八ノ四
○法成寺	三三ノ八	○本草	三九ノ八	○梵論字(虚無僧)	三八ノ一
額	三三ノ八	○本寺	四四ノ一〇	マ	
事變じたる様	三三ノ三	○梵字(虚無僧)	三八ノ一	○妄想	四五ノ七
金堂	三三ノ六	○本寺本山	四二ノ二	○妄心	四五ノ八
大門	三三ノ五	○本 <small>ほん</small>	三八ノ四	○亡者の追善	四四ノ六
扉	三三ノ八	○本説	三三ノ九	○盲目	四四ノ三
南門	三三ノ六	○同	四三ノ二		

○摩訶止觀	三六ノ三	○雅房大納言	三八ノ七	賀茂祭の頃	三三ノ二
○まがり	三七ノ六	○呪	三三ノ六	十月	四三ノ一〇
○巻物	四五ノ七	噓	二五ノ八	後の葵	三九ノ一〇
○枕	三九ノ八	出産	四六ノ九	放免のつけもの	四三ノ二
○枕草紙	三九ノ三	○ますほの薄	四六ノ九	祭のあと	三九ノ七
枯れたる葵	三九ノ三	○またほの薄	四六ノ九	都の人	三九ノ二
季節の文	三八ノ六	○又五郎のこと	三七ノ一	○政—「政治」を見よ	四五ノ五
○實(信義)	四〇ノ八	○松	三九ノ七	○惑	
○誠	四八ノ二	門松	三九ノ七	色欲	三三ノ二
○まことの大事	四〇ノ二	薪	三三ノ七	人生	三六ノ二
○まことの智	四三ノ六	ともし	三九ノ二	惑へるもの	三八ノ七
○まことの盗人	三八ノ二	○松下禪尼	四三ノ九	惑へるわれら	四三ノ一
○まことの道	三六ノ二	○松茸 <small>まつたけ</small>	三八ノ三	○眼 <small>まなこ</small>	四四ノ六
○實の理	三七ノ一	○松尾	三三ノ二	○舞	
○雅清(唐橋中將)	三四ノ二〇	○祭	三九ノ七	七徳の舞	四四ノ二
○雅實(久我の相國)	三三ノ六	大路	三六ノ七	手	四四ノ六
		片田舎の人	三六ノ七		

男舞	四四ノ八	縁を離る	三六ノ二	○味噌	四三八ノ五
○まゝ子立	三九ノ三	數ならぬ	三九ノ六	○御堂	三七六ノ一
○萬葉集の長歌	四五ノ二	虱	三七ノ二	○御堂殿(道長)	三三ノ三
○慢心	四二ノ三	鳥獸蟲	三八ノ三	○道	
○満足	三七〇ノ〇	非を知らず	三九ノ八	愛著の道	三二ノ二〇
○豆	三五七ノ六	身を養ふ	三八〇ノ五	幽玄の道	三八六ノ六
○迷		身を修むる道	三八〇ノ三	至らざる	三九二ノ七
あるじとして随ふ	三七八ノ四	○御講の廬	三三〇ノ二〇	一道にたづさばる人	四二二ノ五
迷の心	三三九ノ一	○御垣が原	四五五ノ八	大なる道	四二五ノ二
女	三七七ノ二	○御溝—河竹	四三三ノ六	恩愛の道	四〇二ノ八
○鞠		○水草	三三〇ノ四	學する人	三六九ノ二
泥土	四二〇ノ五	○御國讓の節會	三三三ノ六	聞きて之に志す	四二六ノ二〇
難易	三七九ノ二	○見ぐるしき事	三八二ノ六	静ならては行じ難し	三五〇ノ六
○賓客の饗應	四七〇ノ一	○御曹子	四五二ノ六	静かに修す	四五六ノ二
		○御簾—「簾」を見よ	四〇四ノ五	所願	四五六ノ六
		○御隨身	四五〇ノ二	知れるもの	三四六ノ一
		○御隨身近友		樂む	四二六ノ九

なづます	四〇五ノ九	○道々の物の上手	三五九ノ一	○源光行	四四四ノ九
庭	四四四ノ三	○通基(久我内大臣)	四三二ノ六	○御室—兒	三四七ノ二
萬事を放下して向ふ	四五六ノ八	○水		○名利—「名利」を見よ	
佛の道—「佛、佛教」を見よ	四三三ノ一	淺くて流れたる	三四八ノ二	○都、都人	
まことに長じぬる人	三六一ノ二	岩に碎けて流るゝ	三三〇ノ一	東に行きて身を立つ	四二二ノ二
まことの道	三九〇ノ二	大なる器	三九七ノ二〇	吾妻人	四〇二ノ七
學ぶ	四一三ノ七	穢	四三三ノ二〇	死者	三九七ノ二
道のあるじ	四五三ノ二	土器	三七三ノ六	月に戀ふ	三九六ノ一
道の冥加	四〇六ノ一	深き	三四八ノ二	物見	三九六ノ二
世の博士	四一五ノ三	○水車	三二五ノ九	○都のつと	四五〇ノ二
世を保たん道	三四四ノ一	○米忠入道	三七三ノ二	○宮司	三五六ノ二
老少	四二九ノ九	○光親卿	三四三ノ九	○御湯殿	三八四ノ三
我道を人の知らざる	四一六ノ二〇	○御調度—「調度」を見よ		○見る	
業	三三三ノ三	○蛇	四二〇ノ二	音に聞くと見る時と	三五九ノ三
○道長(御堂殿)	三三三ノ二	○六月 祓	四二〇ノ二	名と面影	三五八ノ二
○道の衢の分れん事を歎く	四四ノ六	○みなむすび	三九二ノ一〇	○三輪	三三二ノ一〇
○通憲入道		○南		○三井寺	三六五ノ一〇

ム

- 昔「過去」を見よ 三五八ノ三
- 昔物語 四二八ノ一
- 増 三三六ノ二
- 武藏國金澤―甲香 三九三ノ三
- 食る心 三三〇ノ八
- 蟲 三三三ノ三
- かげろふ 三三〇ノ八
- 蛙 三三三ノ三
- 蛇「蛇」を見よ 三七二ノ二
- 皇居 四四四ノ一〇
- 風 三七二ノ二
- 天性 三六九ノ二
- 夏の蟬 三三〇ノ八
- 鹿茸の蟲 四〇五ノ五

- 武者 三五四ノ三
- 無常 四三九ノ五
- 観する事勿れ 三三〇ノ七
- 定めなき世 三五二ノ二
- 水火より速し 三四四ノ五
- 身に迫る 三九八ノ八
- 無常の敵 三六九ノ三
- 無常變易の境 四三九ノ九
- 無常の調子 三九三ノ一
- 無智 四二〇ノ五
- 宗尊親王(鎌倉の中書王) 三七二ノ八
- 無能 四三三ノ七
- 馬 四五一ノ一
- 勇めると鈍きと 三七七ノ二
- 兼好の白讚 三八六ノ二
- 肥えたる 四三三ノ七
- 乘馬 四三三ノ七

- 勅書を持ちたる北面 三七一ノ三
- 作り馬 四四二ノ二
- 乗る人の用意 四四四ノ八
- 浦艾の馬 四五〇ノ二
- 馬藝 三八五ノ四
- 必要 四三二ノ六
- 人くふ馬 四三三ノ二
- 人の力 四〇四ノ二
- 府生殿の御馬 四〇三ノ二
- 馬洗ふ男 三六六ノ五
- 馬のいさかひ 四〇四ノ五
- 落馬の相 三九四ノ一
- 馬のきつりやう 三三三ノ七
- 無量壽院 四三三ノ七
- 馬乗 四三三ノ七
- 城陸奥守泰盛 四三三ノ二
- 吉田 四三三ノ二

メ

- 妻 四二七ノ二
- 眼―阮籍 四二四ノ六
- 銘―鐘 四五二ノ五
- 明雲座主 四〇四ノ一〇
- 名譽、名聞 三三八ノ一
- 埋れぬ名 四五六ノ二
- 行跡の譽 四五六ノ二
- 樂欲する所 四五六ノ二
- 才藝の譽 三五八ノ八
- 身後の名 三五八ノ八
- 毀のもと 三五八ノ五
- 智惠世に勝れたる 四〇五ノ二
- ならびなき 三六二ノ二
- 武勇の名 三三八ノ六
- 譽を愛する 三三八ノ六

- まことの人 三三八ノ三
- 名利 一生の苦痛 三七七ノ九
- 溺るゝ者 三六〇ノ七
- 迷の心 三三九ノ一
- 利に惑ふ 三三八ノ一
- 利を捨つ 三九〇ノ三
- 妙觀(佛師) 四四三ノ三
- めくら法師 四四七ノ二
- 珍らしき事知らぬ人 三六二ノ三
- 珍しきもの 四〇〇ノ二
- めなもみ(草) 三七二ノ二
- 帽額 三三三ノ二
- 望月「月」を見よ 四三八ノ二〇
- 餅 四三八ノ二〇

- もてあつかひぐさ 三六二ノ八
- 基家(田鶴のおほいどの) 四四四ノ一
- 基氏(園別當入道) 四四六ノ五
- 基俊卿 三三三ノ一
- 基俊大納言 四二二ノ四
- 基具(堀河の相國) 三七三ノ一
- 元良親王 三九一ノ五
- 物―人 四三六ノ二
- ものくろと友 三三八ノ二
- 物知れる人 三九二ノ五
- ものなれぬ人 四四九ノ一
- 物につきて費し損ふ 三七二ノ二
- 物のあはれ 三七七ノ五
- 秋 三三〇ノ六
- 命 四〇三ノ七
- 子 三三九ノ一
- 物の上手 三三九ノ一

人品容貌 宿醉 しろろり 勝れたる風采 兵杖の難 法華堂の三味僧 醜きを知らず 落馬の相 横川 <small>よかは</small> の行宣法印 横川の常行堂 よからぬ人 語り笑ふ 酒 無作法 珍しきものもて興す 豫期 實現の不定	三二八ノ四 四一九ノ二 三五二ノ〇 三三八ノ二 四〇四ノ〇 三九二ノ二 三九二ノ五 四〇四ノ五 四三三ノ四 四五二ノ二 三九四ノ八 四七二ノ二 三六二ノ三 四〇〇ノ二 四二七ノ六	怠惰 よき細工 よき人 怪しき事を語らす 酒 偏に興ぜず 物語 物知り顔 よき一言 欲、貪慾 樂欲する所三 大欲 樂 鳥獸蟲 念々の欲 貪る事の止まざるは 欲に従ふ	四二五ノ三 四四五ノ二 三五九ノ二 四二六ノ八 三九六ノ三 三四九ノ四 三六二ノ四 四〇二ノ五 四五六ノ二 四四〇ノ八 四四〇ノ六 三八九ノ三 四四九ノ六 三九三ノ四 四三九ノ六	慾深き人 女 横笛「笛」を見よ 義景 吉田 吉田一馬乗 吉田中納言 よしなしごと 吉野の花 吉平(陰陽博士) 良房(染殿の大臣) 吉水和尚 世捨人 空のなごり 大事 他を思ひくたす 望	三八三ノ二 三七七ノ〇 四三三ノ二 三二二ノ二 四三三ノ二 四二〇ノ八 三二七ノ四 三九九ノ二 四二一ノ六 三三〇ノ二 三五六ノ三 三二九ノ九 三八〇ノ〇 四〇二ノ〇 四五〇ノ二 三五〇ノ二
---	---	--	---	--	--

ひたぶるの世捨人 世繼の翁の物語 世にしたがはぬ人 世の中「人生」を見よ 世の人數 酔一人世 喚子鳥 夜の御殿 搔燈 東御枕 頼長(宇治左大臣) 夜 聲 神佛に詣る 月夜「月、月夜」を見よ 句 晝	三二八ノ二 三三〇ノ三 四〇七ノ二 三九七ノ八 三六〇ノ二 四三三ノ二 三三二ノ三 三九二ノ八 四〇八ノ二 四二八ノ二 四二九ノ六 四二九ノ二 四二九ノ二 四二八ノ二	服裝 更けて参れる人 火影 めでたし 物の音 ゆするする男 良夜 女の化粧 萬の事憑むべからず 廊 老子 老年・老人 暇 老いぬと知らば 藝能	四三八ノ二 四二九ノ二 四二八ノ二 四二九ノ一 四二九ノ四 四四四ノ八 四二九ノ四 四三六ノ二 三七六ノ一 三三三ノ八 四〇六ノ四 三九二ノ〇 四〇六ノ三	藝能 心 期する所 壯なる人に並ぶ 大事 力を以て禮とす 智 分を知らざれば病む 若き人との交り 樂 落馬の相 螺鈿の軸 鸞鏡調 理 聖教の細やかなる理	四二二ノ三 四一六ノ一 三六〇ノ五 三九三ノ二 三八〇ノ九 三九二ノ一 四一六ノ三 三九二ノ三 三八二ノ六 四五六ノ二 四〇四ノ五 三六三ノ二 四四一ノ五 四〇二ノ二
--	--	---	---	--	--

大に就き小か捨つる 四二六ノ八
 變化の理 三六〇ノ八
 實の理 三七〇ノ一
 をかききことわり 四三五ノ八
 女は理に暗し 三七七ノ二
 ○利「名利」を見よ
 ○龍華院 四三三ノ二
 ○隆辨僧正 四三八ノ一〇
 ○六藝 三八六ノ三
 ○理即 四四〇ノ八
 ○律 四四一ノ六
 ○立春 四二〇ノ九
 ○律の禁 四三三ノ七
 ○律呂 四三二ノ四
 ○李部王の記 三九一ノ六
 ○龍騰 四〇〇ノ九
 ○諒闇 三三三ノ二

○梁塵秘抄 三三九ノ九
 ○凌雲の額 三九〇ノ二
 ○旅行 四一九ノ六
 酒 四二九ノ三
 調度 三六六ノ三
 能あそ人 三六六ノ一
 都へのたより 三三六ノ一
 めさむる心地 三三五ノ二
 山里 三三六ノ一
 田舎びたる所 三三六ノ一
 ○呂律 四四二ノ一
 ○禮儀 三六一ノ一
 思はじ 三六一ノ一
 酒 四二七ノ六
 習を誇る 三九一ノ九

貧人 三九一ノ一
 老人 三九一ノ一
 ○伶人 四四二ノ三
 ○料簡 四四二ノ八
 ○料の御牛飼 三八三ノ一
 ○戀愛 三九一ノ八
 あだなる契 三九五ノ八
 逢はぬ戀 三三九ノ四
 色好まざらん男 三三九ノ四
 思ひ亂れたる 三三九ノ四
 何人も變りなし 三三九ノ九
 わりなく思ふ 四四四ノ一〇
 ○連歌 三六二ノ九
 夷 三六八ノ四
 賭物 三三六ノ二
 ○聯想 三三六ノ二
 ○蓮府 四三七ノ九

ワ

○婁宿 四四四ノ八
 ○六月 三三八ノ二
 ○六根清淨 三五七ノ五
 ○六時堂の前の鐘 四四二ノ六
 ○六塵の樂欲 三三二ノ二
 ○六時禮讚 四四五ノ六
 ○鹿茸一腦 四〇四ノ五
 ○六條の故内府 三九四ノ九
 ○六波羅 四〇七ノ一
 ○同 四二二ノ三
 ○露臺 三三二ノ一
 ○論語 四二七ノ三
 ○同 四五一ノ六

○王儉 四三七ノ八
 ○黃鐘調 四四二ノ九
 鐘の聲 四四二ノ九
 西園寺の鐘 四四二ノ九
 夕の穴(横笛) 四四二ノ四
 法金剛院の鐘 四四二ノ二
 無常の調子 四四二ノ九
 最中 四四二ノ六
 六時堂の前の鐘 四四二ノ六
 ○王子猷 三六五ノ九
 ○往生 三三九ノ五
 ○麻弱の官人 四四四ノ四
 ○王土 四四四ノ二〇
 ○和歌 三三九ノ二〇
 あやしの賤山がつ 三三九ノ二〇
 ありたきことは 三三八ノ七
 歌の道 三三五ノ七

歌の道 三三九ノ二二
 歌枕 三三五ノ八
 歌物語 三三九ノ二二
 恐しき猪 三三九ノ二二
 古今集 三三九ノ二二
 古今の比較 三三九ノ二二
 詞書 三三九ノ四
 同 三三九ノ三
 新古今集 三三五ノ四
 和歌論 三三九ノ二〇
 ○和歌・俗談 四四二ノ一
 秋の野の(古今) 四四二ノ一
 飛鳥川(古今) 三三二ノ二
 あやめの草は(江の侍従) 三三九ノ九
 糸による(古今) 三三五ノ一
 かくれども(周防内侍) 三三九ノ一
 君がためにと(伊勢物語) 三三五ノ二

蜘蛛のいに	四四三ノ二	目に立つ	四四八ノ一	○圍碁、碁盤	四二四ノ二
さそふ水(古今)	四五五ノ二	○和漢朗詠集	三六七ノ四	石を弾く心得	四二四ノ二
知られず(新古今)	四五五ノ二	○別		碁打と成功	四二五ノ二
玉だれに(四季物語)	三九九ノ五	生別死別	三三三ノ一	拙き人	四二九ノ七
月をめで(吉水和尚)	三五六ノ四	夏の曙	三七五ノ九	耽ろ人	三八〇ノ五
殿もりの(新院)	三三三ノ八	人情	三三三ノ三	○諱順	四五六ノ二〇
寝る松さへ(新古今)	三五五ノ四	○わきざし	三八二ノ二〇	○田舎人	三六二ノ五
は山しげ山(古今)	四五五ノ四	○和國一單律の國	四三三ノ四	さしいらへ	三六六ノ四
ふたつもじ(延政門院)	三四四ノ四	○和琴	三三六ノ六	花、雪、物見	三四五ノ一
昔見し(堀河院百首)	三三三ノ四	○早稲田	三三六ノ四	○院	三三三ノ二
をりならぬれ(辨の乳母)	三九九ノ八	○福、慢心	四二二ノ二	○院(延政門院)	三三三ノ二
○若き人		○渡邊のひじり	四三六ノ九	○院(後宇多院)	三八八ノ七
貌の老いたるに優る	四二六ノ三	○童「兒童、童」を見よ		○院(後鳥羽院)	三四三ノ九
言語	四四八ノ三	○童名	四四四ノ二	○韻の誤	四五二ノ四
心	四二五ノ八	○破籠	四四八ノ一	○院の御棧敷	三四五ノ四
とするとるに悪き者	三八三ノ九	○香水香	四〇〇ノ九		
身をあやまつ	四二六ノ一				

○尹大納言光忠入道	三七三ノ二	飲酒	三八ノ九	女への親切	三二ノ九
○衛士	三七四ノ二	好色	三九ノ四	○男舞	四四ノ八
○烏帽子	四四四ノ七	教育	三七七ノ五	○小野小町	四一六ノ五
○醉—人生	三六〇ノ二	月下の笛	三四一ノ二〇	○小野道風	三六七ノ四
○醉		定まる妻	三七七ノ三	○女郎花	四〇〇ノ九
愛に泣く	一八ノ二〇	身邊の飾	三七七ノ九	○女	
醉狂	四一八ノ四	讀書	三四一ノ八	足駄にて作れる笛	三三三ノ一
醉泣	四一八ノ三	日暮れて沐浴する	四二九ノ四	あやしの東人	四五五ノ一
○圓伊僧正	三六五ノ九	獨住	四二七ノ二	老いたる尼	四二八ノ六
○惠遠—謝靈運	三七九ノ二	美男	三七三ノ一	老法師	四五五ノ一
		平凡なる妻	四二八ノ二	面白き	三七八ノ四
		婿	四二八ノ一	隠れ家	三七四ノ八
		睦じき物語	三七六ノ二	家事	四二八ノ五
		ふき女	四二八ノ三	髪	三二一ノ七
		女に劣る男	四五五ノ六	髪筋をよれる綱	三三三ノ一
		女に媚ぶる男	三七八ノ二	栗のみを食ふ	三三九ノ八
		女に物言はれたる時	三七七ノ一	化粧	四二九ノ四
○岡本關白殿	三五四ノ一〇				
○萩	四〇〇ノ八				
○男					

兼好試みらる	四五〇ノ二
賢女	三七八ノ三
子産みたる	四二八ノ五
子の愛	四二八ノ五
酒	四二七ノ二
男女の物語	三七六ノ二
智恵	三七八ノ一
同棲	四二八ノ六
似合はぬ男	四五五ノ五
平凡なる女	四二八ノ二
別居	四二八ノ七
松下禪尼	四三三ノ五
よき女	四二八ノ三
男を試む	三七七ノ一
女の價值	三七七ノ九
女は拙し	三七八ノ一
女無き世	三七七ノ八

ヨレヲ見ルアツハ エエヤクククク

徒然草索引終

大正十五年八月二十日印
大正十五年八月二十三日發行

有朋堂文庫
徒然草 (非賣品)

編輯者

東京府下大久保町西大久保二百三十六番地
塚本哲三

印刷者兼

東京市神田區錦町一丁目十九番地
三浦

印刷所

東京市神田區錦町三丁目九番地
有朋堂印刷所

發行所

東京市神田區錦町一丁目十九番地
有朋堂書店

不許複製

岡山製本

543
21

終